

年度 2009 学期 前期	曜日・校時 水曜・3校時	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	社会と歴史 (日本民俗学概論) Society and History (Introduction to Japanese Folklore)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等)	科目分類	人文・社会科学科目	
担当教員:才津 祐美子/研究室:環境科学部 4F 413 号室/E メールアドレス:saitu-kogi@live.jp/オフィスアワー:木曜日 14:30-16:00			
担当教員(オムニバス科目等)			
<p>授業のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本民俗学の成立過程や研究方法、研究対象について理解すること。 <p>授業方法 (学習指導法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義形式による。ただし、毎回授業の最後に授業内容に対する意見や感想、質問等を書いてもらう (担当教員が次の講義の冒頭でそれについて回答する) ので、それを活用して、受講者にも授業に積極的に関わってもらいたい。 <p>授業到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本民俗学に関する基礎的な知識を身につける。 ・自らの身の回りの民俗 (文化) に目を向けるようになる。 			
<p>授業内容(概要)</p> <p>本講義では、民俗学の成立過程や研究方法、研究対象について概説する。特に研究対象については、視聴覚教材も使用しながら、具体的な事例を見ていくことにする。また、現在の状況は、民俗学が成立した際のそれとはかなり変化してきているため、そうした変化についても意識的に言及していく。</p> <p>授業内容(毎週毎の授業内容)</p> <p>第1回 本講義の概説-「民俗学」って何だろう？</p> <p>第2回 民俗学の歴史と先達者①</p> <p>第3回 民俗学の歴史と先達者②</p> <p>第4回 民俗学の研究方法①</p> <p>第5回 民俗学の研究方法②</p> <p>第6回 イエ</p> <p>第7回 ムラ</p> <p>第8回 年齢集団</p> <p>第9回 年中行事①</p> <p>第10回 年中行事②</p> <p>第11回 通過儀礼①</p> <p>第12回 通過儀礼②</p> <p>第13回 カミとヒト</p> <p>第14回 都市民俗学と「民俗」の現在</p> <p>第15回 全講義の総括(レポートを含む)</p>			
キーワード	民俗 (文化)、地域文化		
教科書・教材・参考書	講義レジュメを配布する。また、参考文献に関しては、講義内で適宜紹介する。		
成績評価の方法・基準等	授業内レポート(40%)および学期末レポート(60%)		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ / 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			